



鴻巣西中通信

学 校 だ よ り

鴻巣市立鴻巣西中学校
鴻巣市大間1161番地
令和3年11月1日

第7号

「自分の目標に向かう体力づくり」 ～強歩大会の原点～

校 長 服部幸司

今月11月12日(金)は、鴻巣西中の伝統行事である「強歩大会」が2年ぶりに開催されます。昭和60年度に「第1回熊谷－鴻巣間15km競歩大会」としてスタートした本大会も今年度で36回目を迎えることになりました。

新型コロナウイルス感染状況は、現在落ち着いてきているとはいえ、まだまだ安心できる状況ではありません。そんな状況を踏まえ、今年度については、「鴻巣西中－吹上コスモスアリーナ間往復14km強歩大会」とし、公共交通機関(電車)を使わず、市内での大会としました。



「熊谷－鴻巣間競歩大会」の歴史を紐解くと、前述のようにスタートは昭和60年度、鴻巣西中第2代校長大畑重夫氏の英断によるもの、と記念誌等には記されています。

その年度の卒業生は279名、1つの学年で279名ですから、現在の鴻巣西中の倍近くの生徒数だったことが分かります。しかも、よく調べると、入学時は322名で、途中の鴻巣南中開校に伴って44名の別離があつての279名だったということで、今と同じ教室数で、900名前後の生徒が生活していたことを想像すると、驚くばかりです。

そんな西中生に目標と自信、誇りをもたせようと立ち上がったのが、先生方だったようです。「やらされている体力づくりから、自分の目標に向かっての体力づくり」です。記録には、「第1回熊谷－鴻巣間15km競歩大会では、出場生徒全員が完走し、西中の新しい名物行事をつくった」とあります。

第何回から「強歩大会」となったかは分かりませんが、西中生よ、「心も体も、強くたくましい人間になれ」という、教職員や保護者の方々の思いがこのネーミングになったのだと理解しています。

先日も震度5弱の地震がありました。東日本大震災級の地震で、交通網がストップすることも考えられます。そんな有事の時に、「中学時代に熊谷から鴻巣まで走れたのだから…」



折り返し地点から見える荒川水管橋
－全長は1100 m、日本最長の水管橋

という経験から、自信をもって判断し、自宅まで歩いて帰る西中生もいる、と考えています。強歩大会は、感染症対策、もしもの場合の緊急対応等、安全を第一に実施しますが、同時に生徒に自信と判断力をもたせる「安全対策」だとも捉えています。

今日も生徒達は、体育の時間、自身の脈を測りながら、楽しそうにインターバル走やペース走(LSD走)に取り組んでいます。当時の先生方が、今の西中生の姿を見たら、きっと喜んでくれるに違いありません。



記念リストバンド(ゴム製)
－折り返し地点でもらいます